

「魅力ある県立学校づくり」最優秀賞

生徒主体で取り組む地域になくてはならない学校づくり

～生徒の「やりたい！ やってみたい！」を形に～

千葉県立姉崎高等学校

本校は、京葉工業地域の発展による人口急増に伴い、姉崎地区の強い要望に応える形で昭和53年に創立された普通科の高校です。ピーク時には1学年10クラスまで拡大しましたが、その後クラス減の動きの中で定員割れや問題行動等による指導困難な時期が続きました。平成16年に県教育委員会から「自己啓発指導重点校」に指定されたのを契機に、学び直しの学習指導と丁寧な生徒指導で学校改革に取り組み、現在は、進路決定率ほぼ100%を達成する学校となっています。

しかし、少子化の進行やコロナ禍、入試制度の一本化の影響等により、2年続けて定員割れを起こしており、また、直近の学校評価による生徒の学校生活満足度が70%台と低く、何らかの不満を抱えながら学校生活を送っている様子も窺えました。

そこで、本校が今回「魅力ある県立学校づくり大賞」に応募した内容は、まず在籍する生徒が楽しく充実した生活を送れるようにすると共に、定員割れを起こしている状況を解消し、本校が地域になくてはならない学校として今後も維持・発展していくことを目的として、生徒主体の活動を中心に据えて取り組んだものです。

概要としては、まず、生徒会が令和3年2月にNPO法人カタリバの主催する「ルールメイカー育成プロジェクト」にエントリーし、身近な校則に注目して、生徒や保護者、地域、企業へのアンケート調査やインタビューを通じて改善案をまとめ、職員との対話を重ねながら合意形成を図り、新しい校則を策定しました。この取組はNHKの「あさイチ」や「ニュースウォッチ9」、フジテレビの「ライブニュース『イット』」で放送され、読売新聞、毎日新聞、千葉日報にも掲載されました。



<生徒と職員の対話会>

また、生徒会が、地域活性化を目指す青葉台町会と連携して、空き店舗を利用した地域の交流の場となるカフェ「青葉ノアール」をオープンさせ、生徒が考案した姉崎の特産物イチジクを練り込んだ焼き菓子を販売する等盛大なイベントを行いました。この取組が評価され、キャリア教育分野で「文部科学大臣表彰」を受賞し、千葉日報や広報いちはらに掲載されました。



<カフェのオープン>

さらに、同好会「ふるさとを愛する会」が市原市等と連携し、生徒が今秋オープンする市原歴史博物館を紹介する記事が広報いちはらに掲載されたり、また、中世の史跡「椎津城跡」の整備活動に取り組む様子が千葉日報に掲載されたりしました。



<椎津城跡の整備活動>

これらの取組を通して、校則見直しに参加した生徒からは「校則を守る意味を学べた」「自ら行動して校則を変えられたことで自分の自信につながった」、またカフェのオープンに携わった生徒からは「地域の方々ともちづくりをしていく一歩にしたい」、整備活動に参加した生徒からは「地元にある歴史的に重要な城跡のために貢献することで、地域に恩返ししている気持ちになる」等の声が寄せられました。

今後、校則見直しについては、「スクールメイキング・オープン会議」と称する、学校をより良くするための職員と生徒の対話の場を継続して設定し、また、青葉台町会や市原市との連携も持続可能な形で発展させていくつもりです。本校は、これからも生徒主体の活動を通じて、地域になくてはならない学校づくりに積極的に取り組んでいきますので、御期待ください。